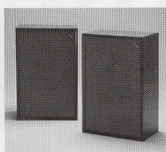


ⅢLZが完熟の果実のような しなやかさ、艶やかさを奏でる

高津 初段にボリウムと入力セレクトアンプを備えた、EL34パラレルプッシュアップルのハイゲインアンプです。ブランドを主宰するティム・デ・パラヴィーチーニの得意な手法を反映した、二段差動設計の前段が特徴的です。EARのアンプとしてはオーソドックスな設計を感じます。

TANNOY



ⅢLZ
in Cabinet

和田 EARらしさが横溢した音ですね。「ヒラリー・コール」は、彼女が女性としての魅力に溢れた優れた歌い手であるということがフルに伝わります。一方で、弦のトリルの美しさも鳥肌もので、ピアノとガットギターの音色も文句なし。鮮やかな表現ですね。
高津 音作りの巧みさがあって、好きな人には堪らない魅力のあるアンプのひとつでしょう。なんといっても音色表現が美しいんです。根が英国らしいと

いうのか、美麗でありながら華美ではない。ヴォーカルなどはむしろどこか湿ってダークな表情が付き、彫りの深い、情緒をしんみり滲えつつはつきりと発声かわかるという聴かせ方。ⅢLZもただものではなく、アンプとあいまって、さちつと英国らしい魅力に溢れた美音を奏でました。

和田 「コーナー・ポケット」は、完熟の果実のような音が設計者、パラヴィーチーニならではのと思わせました。アメリカ西海岸の抜けるような青空みたいにドライで元気な音のビッグバンドも大好きですが、英国のやや仄暗い空の下で聴くビッグバンドのような音になるところが面白く、ややウェットで情緒的ではあるんですが、この音色のよさで、そんなことはどっちでもよくなる。文句なしでした。
高津 スピーディで、楽器のニュアンスをしっかりと掴まえて、しなやかで艶やかなジャズとしてリッチに聴かせます。音楽表現の独特の巧みさは、ほんとうに手練れを思わせます。

EL34 | Parallel Push-Pull

EAR EAR834 Custom ¥488,000

PROFILE

●出力:50W+50W ●入力端子: LINE6系統(RCAアンバランス) ●入力感度/インピーダンス:200mV / 47kΩ ●負荷インピーダンス:8、16Ω ●使用真空管:ECC83×2、ECC85×2、EL34×8 ●寸法/重量:W405×H150×D405mm / 20kg ●問合せ先:ヨシノトレーディング(株) ☎050(3375)3975

イギリス・ブランド。長い世界販売実績を持つEAR834を、オールブラック仕上げ、電源経路へのチョークコイル挿入による音質コントロールなど日本向けにモディファイした、EL34パラレルプッシュプル。A級出力で、出力管EL34は自己バイアス動作。



自社銘(EAR) EL34



リアパネル

新田 ミドル サイズ 英国 スピーカー

管球式 インテグレートッドアンプ

和田 「ブラームス」は逆に、しっとりとした情緒的な特徴が、ウイーンフィルにぴたりとはまりました。聴いていて心地よくなるオーケストラの色艶、ソノリテイのよさは、このアンプならでせう。ⅢLZに血色のよさを与える力を感じました。

高津 ずばりウイーンフィルの音がしたいと思います。ただ、これが、どこまでもハイファイな、ハイレゾ時代の最先端の音かという、そうではない。あくまでもパラヴィチーニならではの耽美的の薔薇園のような世界なんです。万能ではないけれど、この魅力に取り憑かれ

た人には、ⅢLZとの組合せも満足できるに違いないと思います。

SPENDOR



SP1/2R2

高津 ⅢLZと同じようにアンプの美質が出ますが、スピーカーのキャパシテイが大きく分った分、もつと情報を送り込む余地があるような鳴り方になるところもありました。「ヒラリー・コール」のしとやかな柔らかな音像がさらにすつきり前に出てきてくれないかというように、ⅢLZで聴いたときとは違った踏み込んだ要求もちらほらと出てきます。しかし、基本的な鳴りのよさ、音色の美しさ、洒落た小味な魅力は変わりません。

和田 まったく同感です。窓を開け放つたようなハイファイ感を求めるというのは違つて、あくまで真空管アンプとしてのよさを追求しているんでしょね。パラヴィチーニでなければ描けない、立派な額縁に収められた発色鮮やかな美しい絵を見るようで、「どこまでもハイファイというわけではない」という高津さんのご意見がとてもよくわかります。現代スピーカーのスペンダー

ルで聴くと、ⅢLZに比べて、やや冷静で思慮深く優しい女性と聴けるんですが、かといって、不満はまったくないです。額縁に収まって、いつも間近にこの美女を眺められるならじゅうぶんに幸せだな、と。

「コーナー・ポケット」は、フラットでソフィスティケートされた表現もできる現代スピーカーだからこそか、躍動的というより、どちらかといえば女性的で柔らかな表現をするアンプの個性が表れた、やや上品なビッグバンドでした。その点では、ⅢLZで聴いた、かちつとした表現の方が、聴き応えはあつたかもしれませんが。でも、サクスの色艶豊かな音色を聴くと、やはりひじょうに魅力的、このアンプならではの、となるんです。

高津 「ブラームス」では、イントロからウイーンフィルの深い響きが立ち上がる情報量の豊かさ、いい音楽が始まりそうな透明感に富んだ落ち着いた表現を聴かせました。

和田 個々の楽器に色のよさがあつて、総体でも豊かに聴こえます。好印象です。ただ、どちらかといえば、ⅢLZの方がよりドラマティックな描き方だったと思います。

高津 まったく同感ですね。